

表紙の言葉

『朱黒漆雲龍沈金螺鈿卓』

長辺約180cmの大きな机です。天板には、螺鈿で界線を設け、その外側に宝尺文と窓枠形の七宝繫文を配し、界線の内側は朱漆に沈金で雲龍文を配しています。かなり使いこまれた様子で天板の文様は磨耗していますが、製作当時は鮮やかな朱塗りと黄金の線、黒漆に螺鈿の輝きが美しい絢爛たる姿だったことでしょう。天板側面は螺鈿で亀甲文、足と膝の部分には牡丹唐草文をびっしりと施しています。そして、なんといっても足先のかたちが特徴的です。朱色の玉をぎゅっと掴んだ龍を思わせる獣足がかたどられているのです。

龍は権力や中国皇帝を象徴する文様とされていることから、琉球では龍の文様の盆や椀、東道盆などが数多く作られ、献上品として用いられました。皇帝へ贈られたとされる東道盆の中には、蓋に描かれた五爪の龍に合わせて、器物の足部分に朱色の玉を掴む五爪の獣足をかたどった品が見受けられます。一方、本作品を見てみると、天板に描かれた龍が四爪であることに合わせてか、玉を掴む獣足は四爪であらわされています。文様や器物の形状を総合的にデザインして漆器が作られていたことが分かります。また本作品は、『琉球漆器考』という本の中に酷

似した図案が掲載されていることでも知られています。『琉球漆器考』とは、明治22(1889)年に沖縄県の商工課長であった石沢兵吾が、県知事の命を受けて貝摺奉行所から引き継いだ漆器の図案や仕様帳を整理して発行した書籍です。書中には図案が70点ほど掲載されており、その中の一つが図1の挿絵です。本作品と図案を比べると、図柄やかたちが非常に似ていることが分かります。図案と実物の漆器が見事に一致した好例といえるでしょう。この作品は現在常設展示室に展示中です。ぜひお見逃しなく！ (伊禮)



図1 石沢兵吾著
『琉球漆器考』東陽堂発行より



図2 朱黒漆雲龍沈金螺鈿卓の天板

美術館スケジュール 2008年8月～11月

■常設展

琉球王朝文化の華 - 漆芸 -

- 平成20年度前期・4月12日(土)～9月28日(日)
- 平成20年度後期・10月7日(火)～平成21年4月上旬

■企画展

■美術館自主企画

- ・8/21(木)～8/31(日)
ようこそ！知られざるベトナム漆絵の世界へ
- ・10/30(木)～11/16(日)
日本の漆と暮らし - 上神コレクション -

■その他

- ・7/5(土)～8/17(日) 四大浮世絵師展
- ・9/6(土) 第32回 こども絵画コンクール 沖縄支社展覧会
- ・9/9(火)～9/15(月) 柳美紗貴 絵画展
- ・9/10(水)～9/16(火) 渡名喜清 書道展
- ・9/10(水)～9/28(日) サルバドール・ダリと沖縄展
- ・10/7(火)～10/13(月) Textil & Fiber Art 展 in 沖縄
- ・10/15(水)～10/26(日) 第1回 沖縄アートフェスティバル
- ・11/5(水)～11/9(日) 原始機染織展～吉田民子とコットンボールの会～
- ・11/21(金)～11/24(月) 第27回 浦添市文化協会 文化祭
- ・11/29(土)～12/7(日) 宮城 保武 グラフィック・アート展

11月13日は“うるしの日”

1985年(昭和60年)、日本漆工芸協会が11月13日を「漆の日」に制定しました。これは、平安時代のこの日、文徳天皇の皇子・惟喬親王(これがかしんのう～伊勢物語にも登場する親王です～)が、京都の法輪寺で虚空蔵菩薩(こくうぞうぼさつ)に祈願して漆製法の秘伝を授けられたという伝承にちなんだものです。

当美術館では毎年「漆の日」にあわせて、「美術館フェスタ」を開催しています。今年も漆器づくり体験教室など、数々の楽しいイベントを予定しております。詳細はホームページや広報誌などでお知らせいたしますので、どうぞお楽しみに！



堆錦(ついきん)体験教室の様子

開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
*金曜日は午後7時まで(入館は午後6時30分まで)

休館日

毎週月曜日
*展示替えのための臨時休館9/30(火)～10/5(日)